

巻頭言

病院長 石川 典俊

皆様には平素より大変お世話になっており、心より御礼申し上げます。「JCHO登別病院年報」最新版が出来上がりましたので、お届けいたします。

世界中を席巻したコロナ禍は、医療従事者の活躍もあり、一段落しましたが、今もくすぶり続けております。元日に能登を襲った地震、各地で起きるゲリラ豪雨、大型台風、40度にもおよぶ熱波、終わらない猛暑日などなど異常気象は年々規模が増大し人々を苦しめています。それに加えてウクライナやガザでの戦争は長引いており日々、犠牲者が増え続けています。命を預かる我々にとって心休まる事のない毎日です。

我が国では「少子高齢化社会」がますます進行し、労働力不足が深刻になっています。毎年、多くの人が亡くなる「多死社会」でもあり、2003年(平成15年)に年間死亡数が100万を超えた、2005年(平成17年)からは死亡数が出生数を上回って「人口減少社会」になりました。昨年2023年(令和5年)には、157万6千人の方々が亡くなっています。一方で年間の出生数は72万7千人にまで減り続けており、死亡数の46%となっています。人口4万4千人の登別市でも昨年生まれた子どもの数は166人でした。

こうした社会の急激な変化に、医療のシステムも我々の意識もついて行っていないのが現状です。いま一度、社会のコンセンサスとして医療の在り方や死生観を問い合わせ直す必要があると考えています。

JCHO登別病院も新築移転して5年目になりました。この間、病床利用率は90%を越え、外来や健診の利用者も順調に伸びてきました。それにも拘わらず、物価の高騰や減価償却費の増加などで病院経営は厳しい状況が続き、昨年度は残念ながら赤字決算となっています。経営の責を負う者として、日夜奮闘し力いっぱい頑張ってくれている職員には申し訳なく思っています。

一方で、登別温泉を訪れる観光客はコロナ禍前の水準に戻り、地域は賑わいをとりもどしています。今年の登別温泉鬼祭りには、4年ぶりに「JCHO登別病院有志」として延べ62名が参加し、東京から参加のJCHO理事長も加わって、神輿担ぎや鬼踊りで祭りを盛り上げることができました。

これからも地域に根ざした病院として、地域医療の未来に貢献していきたいと思っております。JCHO登別病院をよろしくお願ひいたします。

令和6年10月



令和5年度

JCHO登別病院年報

目 次

卷頭言	1
目次	2
病院理念・基本方針	3
病院の組織及び職員の状況	
組織の状況	4
職員数	5
令和5年度 損益計算書	6
令和5年度 科別患者推移	7
診療科紹介	
整形外科	8
内科	9
リハビリテーション科	10
麻酔科	10
脳神経内科	11
泌尿器科	11
部署紹介	
看護部	12
西病棟	13
東病棟	14
外来	15
手術室	16
内視鏡室	17
薬剤部	18
診療放射線室	19
臨床検査室	20
リハビリテーション室	21
通所リハビリテーション トレイユ	22
訪問リハビリテーション	23
栄養管理室	24
訪問看護ステーション	25
地域連携室	26
居宅介護支援センター	27
登別市地域包括支援センターゆのか	28,29
総務企画課 総務	30
総務企画課 経理	31
総務企画課 医事	32
健康管理センター	33
委員会紹介	
医療安全委員会	34
感染対策室	35
病床管理委員会	36
NST委員会	37
輸血療法委員会	38
褥瘡対策委員会	39

病院理念

1. 私たちは、健康と命を守ることを使命とし、良質で安全な医療を提供します。
2. 私たちは、笑顔と真心で患者さまに接します。
3. 私たちは、地域の医療機関と連携を密にし、医療と福祉を推進します。

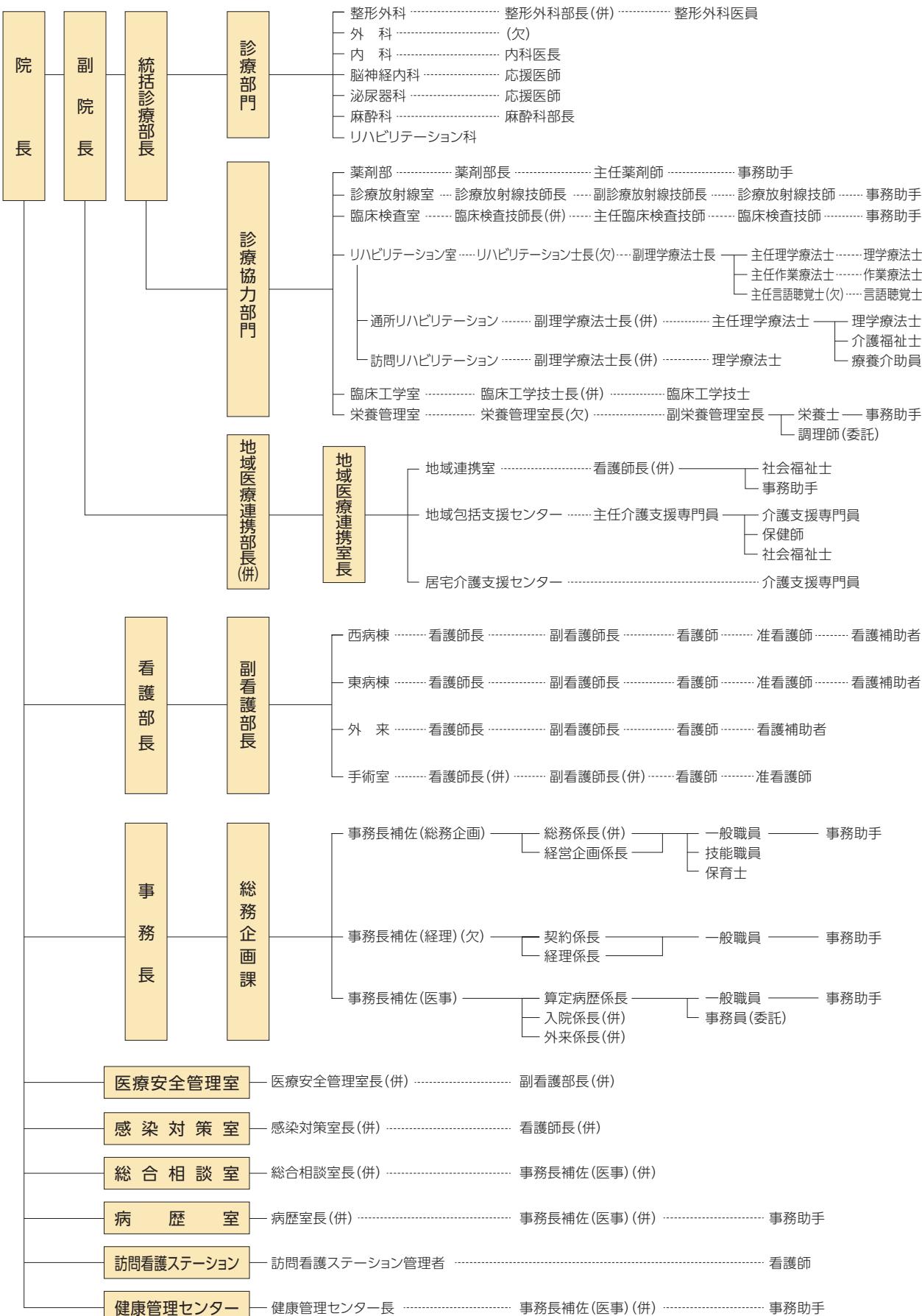
基本方針

1. 地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢化社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えます。
2. 疾病の予防から治療、社会復帰に至る総合的かつ一貫した病院運営をはかります。
3. 質の高いリハビリテーション病院としての社会的責任と役割を自覚し、北海道内の広い地域からの患者さまの信頼を得られるよう確固たる基盤を確立します。
4. 登別市内唯一の公的病院として、地域住民の安心と観光をはじめとする地域産業の発展に寄与できるよう、救急・急性期医療の体制の確立をはかります。

病院の組織及び職員の状況

① 組織の状況

令和5年4月1日現在



病院の組織及び職員の状況

② 職員数

令和5年4月1日現在

職種	常勤職員数	非常勤職員数	非常勤職員数 (常勤換算)	常勤職員数 + 非常勤職員数	常勤職員数 + (常勤換算)
医 師	9			9	9.0
薬 剤 師	2			2	2.0
臨 床 検 査 技 師	2	2	1.6	4	3.6
診 療 放 射 線 技 師	3			3	3.0
栄 養 士	2			2	2.0
理 学 療 法 士	24	1	0.3	25	24.3
作 業 療 法 士	14			14	14.0
言 語 聽 覚 士	4			4	4.0
看 護 師	57	10	5.0	67	62.0
事 務 職	10	9	7.2	19	17.2
技 能 職	1	1	0.8	2	1.8
福 祉 職	2	3	2.2	5	4.2
介 護 福 祉 職	10			10	10.0
療 養 介 助 職		16	10.8	16	10.8
	140	42	27.9	182	167.9

令和5年度 損益計算書

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
経常収益	156,082	158,585	161,771	172,552	171,490	156,748	177,060	163,086	168,413	167,281	163,078	175,231	1,991,377
診療業務収益	150,778	152,365	156,846	166,856	166,427	151,479	171,907	157,981	163,108	162,389	157,861	168,907	1,926,904
医業収益	146,818	148,870	152,202	162,887	160,523	147,367	167,680	154,293	158,843	158,513	154,177	157,127	1,869,300
入院診療収益	115,407	115,388	117,831	129,813	125,348	111,833	131,172	123,442	122,827	125,528	121,594	121,507	1,461,690
室料差額収益(診療)	602	408	354	523	825	959	817	944	807	847	692	567	8,345
外来診療収益	23,765	24,280	24,933	23,789	26,010	26,884	23,879	23,289	26,841	26,046	25,341	24,844	299,901
訪問看護収益	2,211	2,016	2,130	2,080	2,014	1,821	1,957	1,829	1,946	1,877	1,793	1,739	23,413
保健予防活動収益	4,841	5,966	6,710	6,516	6,145	5,565	9,828	7,935	6,071	4,038	4,768	8,878	77,261
受託検査施設利用収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	86	115	17	218
文書料	353	392	331	406	419	436	445	471	450	519	538	448	5,208
シ)その他	5	54	56	61	46	70	77	51	51	44	83	71	669
保険等査定減(△)	▲366	366	▲143	▲301	▲284	▲201	▲495	▲3,668	▲150	▲472	▲747	▲944	▲7,405
補助金等収益	151	151	151	151	151	151	151	151	151	151	151	8,081	9,742
寄附金収益	0	0	243	0	0	0	0	0	0	0	0	0	243
その他診療業務収益	3,809	3,344	4,250	3,818	5,753	3,961	4,076	3,537	4,114	3,725	3,533	3,699	47,619
介護業務収益	4,760	4,666	4,653	4,649	4,718	4,660	4,774	4,733	4,727	4,561	4,904	5,611	57,416
介護収益	2,922	2,828	2,815	2,811	2,830	2,826	2,919	2,899	2,893	2,727	3,070	2,902	34,442
居宅介護支援 介護料収益	1,595	1,518	1,490	1,500	1,531	1,502	1,559	1,547	1,488	1,423	1,616	1,546	18,315
その他介護収益	1,327	1,310	1,325	1,311	1,299	1,324	1,360	1,352	1,405	1,304	1,454	1,356	16,127
介護報酬査定減(△)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補助金等収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	50
その他介護業務収益	1,838	1,838	1,838	1,838	1,888	1,834	1,855	1,834	1,834	1,834	1,834	2,659	22,924
地域支援センター 委託料収益	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	1,834	2,709	22,883
その他介護業務収益	4	4	4	4	54	0	21	0	0	0	0	▲50	41
その他経常収益	544	1,554	272	1,047	345	609	379	372	578	331	313	713	7,057
経常費用	163,544	161,598	164,120	167,285	164,938	165,012	172,770	168,800	172,721	170,895	172,018	177,556	2,021,257
診療業務費	158,968	157,097	159,483	162,878	160,447	160,382	168,262	164,121	167,849	166,149	167,172	172,380	1,965,188
給与費	87,041	86,623	86,437	87,165	87,485	87,448	88,119	89,231	88,213	90,486	90,654	89,418	1,058,320
材料費	17,590	15,283	18,171	21,976	20,049	17,774	22,427	19,587	23,023	20,131	22,079	20,473	238,563
委託費	14,688	14,709	14,755	15,802	15,432	15,949	15,696	15,173	15,376	14,113	14,332	15,119	181,144
設備関係費	26,996	26,499	31,107	27,660	27,815	28,305	29,493	28,047	28,407	27,657	27,519	28,602	338,107
研究研修費	44	67	340	44	44	44	44	51	56	134	67	44	979
経費	12,609	13,916	8,673	10,231	9,622	10,862	12,483	12,032	12,774	13,628	12,521	18,724	148,075
介護業務費	4,253	4,215	4,323	4,073	4,084	4,219	4,141	4,303	4,500	4,348	4,443	4,593	51,495
給与費	3,676	3,660	3,792	3,666	3,644	3,727	3,725	3,889	4,072	3,942	4,007	4,034	45,834
材料費	2	0	8	0	0	0	3	0	1	0	6	3	23
委託費	0	132	68	68	68	57	68	57	68	49	48	751	
設備関係費	346	117	132	124	129	145	131	125	143	123	126	135	1,776
研究研修費	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43
経費	229	306	280	215	243	279	225	221	227	215	255	373	3,068
その他経常費用	323	286	314	334	407	411	367	376	372	398	403	583	4,574
経常収支差	▲7,462	▲3,013	▲2,349	5,267	6,552	▲8,264	4,290	▲5,714	▲4,308	▲3,614	▲8,940	▲2,325	▲29,880
臨時利益	0	0	0	0	0	0	150	0	0	0	258	0	408
臨時損失	0	780	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	780
総経常収支差	▲7,462	▲3,793	▲2,349	5,267	6,552	▲8,264	4,440	▲5,714	▲4,308	▲3,614	▲8,682	▲2,325	▲30,252

(単位:千円)

令和5年度 科別患者推移

入院

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実日数	診療実日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
整形外科	延べ患者	1,766	1,782	1,539	1,746	1,666	1,585	1,730	1,780	1,836	2,092	2,061	1,900	21,483
	入院数	38	43	44	35	43	39	38	40	53	56	48	36	513
	退院数	41	40	40	36	44	34	35	39	51	43	44	57	504
	1日平均	58.9	57.5	51.3	56.3	53.7	52.8	55.8	59.3	59.2	67.5	71.1	61.3	58.7
内科	延べ患者	556	776	869	890	799	746	869	710	712	570	388	425	8,310
	入院数	37	27	39	33	34	22	43	36	23	27	21	25	367
	退院数	33	29	36	39	35	28	41	36	32	28	30	27	394
	1日平均	18.5	25.0	29.0	28.7	25.8	24.9	28.0	23.7	23.0	18.4	13.4	13.7	22.7
リハビリテーション科	延べ患者	530	519	516	540	702	622	532	528	553	508	538	701	6,789
	入院数	6	6	4	6	7	3	6	7	4	1	7	6	63
	退院数	5	6	5	2	3	7	8	7	4	2	1	3	53
	1日平均	17.7	16.7	17.2	17.4	22.6	20.7	17.2	17.6	17.8	16.4	18.6	22.6	18.5
合計	延べ患者	2,852	3,077	2,924	3,176	3,167	2,953	3,131	3,018	3,101	3,170	2,987	3,026	36,582
	1日平均	95.1	99.3	97.5	102.5	102.2	98.4	101.0	100.6	100.0	102.3	103.0	97.6	100.0
	病床利用率	86.4%	90.2%	88.6%	93.1%	92.9%	89.5%	91.8%	91.5%	90.9%	93.0%	93.6%	88.7%	90.9%

外来

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療実日数		20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
整形外科	延べ患者	938	990	1,092	1,007	1,094	1,120	1,104	1,040	1,088	1,117	1,070	1,106	12,766
	1日平均	46.9	49.5	49.6	50.4	49.7	56.0	52.6	52.0	54.4	58.8	56.3	55.3	52.5
	診療実日数	20	20	22	20	22	20	21	20	20	19	19	20	243
内科	延べ患者	556	641	701	615	828	763	688	699	772	686	614	729	8,292
	1日平均	27.8	32.1	31.9	30.8	37.6	38.2	32.8	35.0	38.6	36.1	32.3	36.5	34.1
	診療実日数	4	3	5	4	5	4	4	4	4	4	5	4	50
脳神経内科	延べ患者	69	48	70	58	73	58	67	68	63	64	66	56	760
	1日平均	17.3	16.0	14.0	14.5	14.6	14.5	16.8	17.0	15.8	16.0	13.2	14.0	15.2
	診療実日数	4	4	4	4	5	4	4	5	4	4	4	3	49
泌尿器科	延べ患者	81	65	83	76	71	82	70	72	73	66	70	78	887
	1日平均	20.3	16.3	20.8	19.0	14.2	20.5	17.5	14.4	18.3	16.5	17.5	26.0	18.1
	診療実日数	1,644	1,744	1,946	1,756	2,066	2,023	1,929	1,879	1,996	1,933	1,820	1,969	22,705
合計	延べ患者	82.2	87.2	88.5	87.8	93.9	101.2	91.9	94	99.8	101.7	95.8	98.5	93.4
	1日平均													

診療科紹介

独立行政法人 地域医療機能推進機構 登別病院

JCHO登別病院
NOBORIBETSU HOSPITAL

整形外科

職員紹介



小澤 慶一
(統括診療部長)



江崎 克樹
(医員)



金江 剛
(医員)



松本 洋太
(医員)

特 徴

常勤医師4名で外来診療を毎日午前中実施している。午後は手術を実施している。

白老町立病院、伊達赤十字病院の外来診療の応援も行っているほか、当院の救急患者対応として整形外科疾患については365日24時間の診療体制をとっている。

診療対象疾患

整形外科疾患全般(骨折・その他外傷・脊椎疾患・関節疾患など)

診療実績

- ・ 外来1日平均患者数52.5人、365日24時間の救急医療の実施。
- ・ 入院1日平均患者数58.7人、四肢の骨折に対する手術、関節疾患に対する人工関節手術、脊椎の手術を主に行い、術後・外傷後のリハビリテーションにも力を入れている。
- ・ 令和5年度手術件数352件(外来手術を含む)うち手術室で行われた手術251件、うち全身麻酔による手術件数136件

内 科

職員紹介



石川 典俊
(院長)



横山 豊治
(副院長)



代田 充
(医長)

特 徴

常勤医師3名で外来診療を毎日午前中実施し、救急の受け入れも行っている。また、一般的な内科疾患に加え、消化器特殊疾患の診断・診療も行い、当院で併設している健康管理センターの二次健診も行っている。

診療対象疾患

内科疾患全般(高血圧症、糖尿病、脂質異常症、消化器特殊疾患など)

診療実績

- ・外来1日平均患者数34.1人、一般内科として内科全般の診療を行い、救急の受入も行っている。
- ・入院1日平均患者数22.7人、肺炎等の治療や胃瘻造設・交換を主に行い、大腸内視鏡検査も行っている。
- ・令和5年度手術件数126件 (内、大腸ポリープ・粘膜切除術101件)

リハビリテーション科

職員紹介



横山 豊治
(副院長)

特 徴

リハビリテーション科医師1名と地域医療研修医で入院診療(回復期リハビリテーションを主として)を実施している。他院より脳血管疾患等の治療後のリハビリを目的とした患者の紹介を受けて、多職種協同して在宅復帰を目標とした計画的なリハビリテーションを実施している。

診療対象疾患

リハビリテーション対象疾患(脳梗塞後遺症、脳出血後遺症、廃用症候群など)

診療実績

- ・入院1日平均患者数18.5人、脳血管疾患等の治療後及び肺炎等の治療による廃用症候群に対する計画的なリハビリテーションを実施している。

麻酔科

職員紹介



鎌田 紀子
(麻酔科部長)

特 徴

常勤医師1名で入院患者のうち手術実施予定者に対する診察及び手術中の麻酔管理を実施している。

診療対象疾患

整形外科手術対象患者

診療実績

- ・令和5年度手術室で行われた手術251件、うち麻酔科管理による手術件数195件

脳神経内科

特　　徴

関係大学からの派遣医師により外来診療を毎週木曜日の午前中実施している。

診療対象疾患

脳神経内科疾患全般（てんかん、脳卒中、パーキンソン病など）

診療実績

- ・外来1日平均患者数15.2人、脳神経内科疾患全般の診療を行っている。

泌尿器科

特　　徴

関係大学からの派遣医師により外来診療を毎週水曜日の午前中実施している。

診療対象疾患

泌尿器科疾患全般（前立腺肥大症、前立腺がん、膀胱機能障害など）

診療実績

- ・外来1日平均患者数18.1人、泌尿器科疾患全般の診療を行っている。

部 署 紹 介

独立行政法人 地域医療機能推進機構 登別病院

JCHO登別病院
NOBORIBETSU HOSPITAL

看護部

職員紹介

沓澤 佳代子（看護部長）

津野 幸子（副看護部長）

育児休業者 看護師4名

産前産後休業 看護師1名

看護管理体制：看護部長1名、副看護部長1名、看護師長5名（病棟2名、外来・手術室1名、訪問看護1名、地域連携室1名）副看護師長5名（病棟4名、外来・手術室1名）

業務内容

- ・看護サービス向上に向けた業務改善
- ・看護職員および看護学生の教育
- ・労務環境の改善・管理
- ・人材確保（インターンシップ等）

令和5年度実績

看護部主催研修会開催（ラダー研修6回、新人研修20回）

認定看護者教育課程ファーストレベル研修 1名修了

医療安全管理者研修 1名修了

NST専門療法士 1名取得

排尿自立支援加算・外来排尿自立指導料対象研修 1名修了

看護研究発表（院内） 4題

事例発表会（院内） 2題

JCHO学会発表 1題

室蘭支部学会発表 1題

キャリアラダー付与7名（レベルⅠ：2名 レベルⅡ：3名 レベルⅢ：1名 レベルⅣ：1名）

日鋼記念看護学校1校より、臨地実習の受け入れ

令和5年度総括

業務量調査を実施し、看護の質向上や労働環境改善に向けた取り組みを継続的に行ってています。

急性・重症患者認定看護師を講師に招き、全職員対象に「BLS研修」（Basic Life Support:一時救命処置）を企画しました。この研修を通じて、質の高い初期対応が提供できるように努めています。

また、院内、院外研修に参加し、臨床実習を受け入れることで、人材育成にも力を入れています。

多職種協働による入退院支援やベッドコントロールを実施し、病床稼働率の維持に繋げています。

西病棟(急性期一般病床40床・地域包括ケア病床15床)

職員紹介

小林 美喜枝 (看護師長)	看護師19名
西谷 洋美 (副看護師長)	非常勤看護師2名
深澤 孝子 (副看護師長)	介護福祉士1名
	非常勤療養介助員4名

業務内容

一般病棟の中に地域包括ケア病床を持ち、整形外科・リハビリテーション科・内科の混合病棟です。整形外科では、骨折や変性疾患の患者が多く、手術前後の疼痛緩和に努め、安心して手術を受けられるようにケアを行っております。また、疼痛の状況に合わせて早期からリハビリに取り組んでいます。当院のある西胆振地区は高齢化率が高く、所在地である登別市は37.0%、すぐ隣の白老町は47.0%となっており、高齢者夫婦や独居、認知症の患者も多く入院しています。受け持ち看護師は、患者や家族の意向を尊重し、できる限り住み慣れた自宅や施設に退院できるよう、院内外の多職種と協力して、退院調整に取り組んでいます。

令和5年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院患者数	81	76	87	74	84	64	87	82	80	84	76	67	932
退院患者数	47	48	56	59	50	45	45	56	54	56	55	56	627
一般病床平均在院日数	13.5	16.3	15.2	17.5	17.1	22.6	16.5	13.7	15.8	14.5	16.5	17.5	16.4
地域包括病床在宅復帰率	95.0%	81.8%	76.0%	81.5%	76.0%	95.5%	85.7%	82.4%	77.4%	82.1%	85.7%	88.9%	84.0%
病床利用率	76.6%	83.2%	84.5%	87.4%	87.0%	81.5%	85.3%	84.0%	83.8%	86.3%	87.6%	79.4%	83.9%
手術件数	14	15	19	20	22	15	22	18	25	27	25	29	251

※平均在院日数・在宅復帰率については単月実績

令和5年度総括

当院の入院基本料「急性期一般入院基本料4」、「地域包括ケア入院医療管理料2」の看護必要度と、地域包括病床の在宅復帰率の双方ともに算定基準をクリアしました。また、入院患者数も令和4年度と比較して増加しました。

胃・大腸カメラ・内視鏡ポリープ切除目的の入院患者を曜日を決めて定期的に受け入れました。

今年度は、既存のクリティカルパスの修正を行い、患者へわかりやすく説明することで安心して検査・手術を受け入れるように取り組みました。

退院支援では、認知症や在宅酸素など家族の協力が必要な患者について、多職種とカンファレンスを行い、家族へ在宅での介助方法や機器の操作や手技などを繰返し説明し、患者・家族の不安を取り除くことで在宅へ退院することができました。また、新たに退院後訪問指導についてマニュアルを作成し、4件の退院後訪問を実施しました。

今年度の看護研究では「退院支援の際の家族の気持ちの変化」について取り組み、結果として、「患者・家族の気持ちが変化するものであり、その時々の気持ちに寄り添った看護が必要」とスタッフの意識の変化につなげることができました。

レスパイト入院も受け入れ、地域住民の生活を支えるという当院の役割を果たしました。

東病棟(回復期リハビリテーション病床・55床)

職員紹介

平田 恵美子 (看護師長)	社会福祉士1名
山村 操 (副看護師長)	看護師14名
大河原 朋子 (副看護師長)	介護福祉士1名
	非常勤看護師4名
	非常勤療養介助員7名
	療養介助員 (派遣) : 株式会社ソラスト3名

業務内容

脳血管疾患または整形外科疾患の手術後などの急性期を脱し、機能維持、向上のため集中的なリハビリテーションを実施しています。

日々の入院生活もリハビリ訓練の一環として、日常生活を患者様が自力で行えるよう支援しています。また、障害の受容に関して精神的なサポートを行いながら、患者様の持てる機能を最大限に引き出し、退院後は最良の場所で生活を送ることができるように、院内外の専門職が連携してチーム医療を行っています。その中で看護職員はチーム医療の調整役、診療の補助など幅広い役割を担うことができるよう日々努力しています。

令和5年度実績

病床利用率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	96.2%	97.3%	92.6%	99.3%	98.7%	97.5%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	98.3%	98.9%	98.0%	99.5%	99.6%	98.0%	

在宅復帰率 (単月)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
	77.4%	76.9%	79.2%	94.1%	81.3%	73.9%	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	76.9%	76.9%	78.6%	70.6%	73.9%	77.4%	

令和5年度総括

新型コロナウイルス感染症は5月より5類となりましたが、6月、8月、12月にクラスターの発生がありました。しかし、感染対策を強化することで最短での終息を実現することができました。結果として、病床利用率を低下させることなく、年間を通して高い利用率を維持し、地域のニーズに応えることができました。

また、昨年に引き続きACP (Advance Care Planning) の取り組みとして、各自が事例報告書を作成し、チーム内で看護の振り返りを行い、情報の共有を図りました。

令和5年度から退院後訪問を実施することで、入院時の看護が適切であったかを評価することができました。

看護研究では、当院における二次性骨折の現状を分析しました。健康寿命が延長し、住み慣れた地域での生活が継続できるように、他職種と連携し必要な指導について、検討を開始しました。

外来

職員紹介

佐藤 香（看護師長）（手術室・内視鏡室兼務）
阿閉 友美（副看護師長）（手術室兼務）
常勤看護師 3名（手術室兼務2名、手術室・内視鏡室兼務1名）
非常勤看護師 3名（内視鏡室兼務 2名）
非常勤療養介助員 1名（内視鏡室兼務）

業務内容

診療科：内科・整形外科・泌尿器科（週1回）・脳神経内科（週1回）

糖尿病専門外来（月1回）

- 各診療科の診療の介助、採血等の実施
- 放射線検査・処置（造影検査・胃ろう交換・嚥下造影など）の介助
- 各ワクチン接種
- 65歳以上の患者に対し、介護保険申請状況・サービス利用状況の確認
- 在宅介護における相談
- 近隣地域介護サービス事業所・訪問看護ステーションとの連携

令和5年度実績

外来
診療者数

	整形外科	内 科	脳神経内科	泌尿器科	合 計
令和5年度	12,766	8,292	760	887	22,705
令和4年度	11,815	8,485	766	979	22,045
前年度比	951	-193	-6	-92	660

その他の
診療

	子宮がん検診	救急車搬入
令和5年度	225	281
令和4年度	204	308
前年度比	21	-27

令和5年度総括

昨年に比べ、整形外科のみ受診者数が増加しました。内科・泌尿器科に関しては若干減少しました。内科減少の背景には、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行後も引き続き発熱者の診療は継続しておりますが、軽症者の受診が減少したことが要因と考えます。整形外科に関しては、当院が地域住民の方々に周知されつつあり、受診者数の増加に繋げられたと考えます。

高齢受診者が多く、訪問看護、地域の介護サービス事業所等との連携を図りながら、住み慣れた地域・自宅での生活が継続できるよう支援に努めました。

手術室

職員紹介

佐藤 香（看護師長）（外来・内視鏡室兼務）

阿閉 友美（副看護師長）（外来兼務）

常勤看護師3名（外来兼務2名、外来・内視鏡室兼務1名）

非常勤准看護師1名

業務内容

整形外科手術

膝・股関節・脊椎等の変性疾患及び上肢・下肢等の外傷手術

当院では、外来・手術室が同一の部署となっています。そのため、手術対象患者には外来受診時・救急搬入時より関わり、安心して手術が行われるようサポートしています。

令和5年度実績

整形外科手術

	人工関節	脊椎手術	外傷等	その他	局麻等小手術	合 計
令和5年度	39	10	124	41	47	261
令和4年度	40	11	145	30	34	260
前年度比	-1	-1	-21	11	13	1

※同時に行われた手術をそれぞれ1件としてカウント

令和5年度総括

手術件数は、前年度とほぼ同数でした。

内訳では、人工関節等変性疾患、脊椎疾患は横ばい、外傷は若干の減少がみられました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行後も院内クラスターの発生はありましたが、大きな影響なく手術業務が行えました。

内視鏡室

職員紹介

佐藤 香（看護師長）（外来・手術室兼務）
常勤看護師1名（外来・手術室兼務）
非常勤看護師2名（外来兼務）
非常勤療養介助員1名（外来兼務）

業務内容

- ・健康診断及び外来患者の上部消化管検査
- ・大腸の検査・内視鏡的ポリープ切除
- ・内視鏡的異物除去術・止血術等
- ・胃ろう造設

令和5年度実績

	上部内視鏡	下部内視鏡 ()ポリペク	胃ろう造設	合 計
令和5年度	1,593	196(102)*	7	1,796
令和4年度	1,430	159(68)*	9	1,598
前年度比	163	37(34)*	-2	198

※()内は再掲となります

令和5年度総括

消化器内科医師着任2年目となり、消化器症状の受診患者数が増加し、外来患者の内視鏡検査件数も増加しました。大腸がん健診の二次検受診者数も増加し、それに伴い大腸検査およびポリープ切除術も増加しました。

新型コロナウイルス感染症の5類移行後も院内クラスターの発生はありましたが、内視鏡業務は継続することができました。

薬剤部

職員紹介

堀 良行（薬剤部長）

福野 和治（主任薬剤師）

非常勤薬剤助手1名

業務内容

調剤業務

病棟業務／薬剤管理指導業務・チーム医療参加（ICT、NST、FLS、褥瘡回診）

D I 業務／医薬品適正使用・電子カルテ薬品マスター管理（在庫管理業務含）、疑義紹介、プレアボイド業務

令和5年度実績

薬剤管理指導 I・II 算定件数：1,312件 総計金額：4,668,950円

I：677件、II：635件、麻薬加算：4件、退院時指導：34件

入院処方箋枚数：15,459枚

外来院内処方箋枚数：873枚

外来院外処方箋枚数：18,261枚

入院注射箋枚数：8,179枚

外来注射箋枚数：3,694枚

持参薬鑑別件数：1,264件

令和5年度総括

薬剤管理指導業務は、前年度比+133件：463,750円の増収しました。

在庫管理

	購入額	損耗額	払出額	繰り越し	在庫日数
令和5年度 2023	86,959,051	175,469	86,567,542	3,642,929	15.4
令和4年度 2022	83,777,597	208,030	83,511,706	3,426,893	15.0
令和3年度 2021	69,747,214	268,185	69,283,410	3,287,961	17.3
令和2年度 2020	51,060,600	358,261	56,736,721	3,100,727	19.9
令和元年度 2019	58,908,566	633,816	58,327,571	3,421,227	21.4

購入額は増加しているものの、損耗額は徐々に減少しました。

（単位：円）（単位：日）

年度末在庫日数は、15.4日分に昨年度よりやや増加しました。

診療放射線室

職員紹介

福岡 深治（診療放射線技師長）
秋元 聰（副診療放射線技師長）
診療放射線技師1名
非常勤事務員1名

業務内容

一般撮影装置 2部屋・ポータブル撮影装置 2台（病室及びOP室）・骨密度測定装置・16列CT装置・1.5T MRI装置・乳房撮影装置・多機能X線TV装置を有し、内科・整形外科・脳神経内科・泌尿器科からの依頼検査の他、健診業務を承っています。

他院から依頼された検査も行っています。

PACS画像の管理、放射線読影（外部委託）の取次も行っています。

令和5年度実績

検査種	一般撮影	乳房撮影	CT	MRI	骨密度	ポータブル	造影検査
令和5年度	13,061	656	1,156	1,631	2,017	294	572
令和4年度	12,882	512	1,225	1,345	2,266	322	529
令和3年度	13,307	534	1,147	1,132	2,040	335	474
平均	13,083.3	567.3	1,176.0	1,369.3	2,107.7	317.0	525.0

(件)

令和5年度総括

前年度と比較して、一般撮影・乳房撮影・MRI・造影検査の件数が、健診受診者の増加に伴い増えています。CT・骨密度・ポータブル撮影件数は減少となりました。直近3年の数値から、新病院移転による患者数の増加傾向には落ち着きが見られ、検査数の変動も落ち着くものと考えられます。

臨床検査室

職員紹介

五十嵐 香（主任臨床検査技師）

臨床検査技師1名

非常勤臨床検査技師2名

非常勤検査助手1名

業務内容

- ・検体検査（生化学・免疫・血液・一般・輸血）
- ・生理検査（心電図・ホルター心電図・超音波・肺機能・聴力・眼底・脈波・神経伝導速度等）
- ・発熱外来（抗原検査）
- ・外来・入院・健診採血管準備、検体回収
- ・チーム医療参加（NST、ICT、褥瘡）
- ・健診業務（検体検査・生理検査・採血）※職員健診含む

令和5年度実績

	外来・入院(前年比)	健診(前年比)
検 体 検 査	199,334件(106%)	40,630件(112%)
心 電 図 検 査	1,179件(100%)	2,331件(103%)
ホルター心電図検査	278件(100%)	
超 音 波 検 査	381件(90%)	858件(119%)
その 他 生 理 検 査	164件(252%)	3,725件(109%)
新型コロナ抗原検査	2,608件(53%)	
合 計	203,944件	47,544件

令和5年度総括

令和5年度の検体検査件数は外来・入院検査199,334件(前年比106%)、健診40,630件(前年比112%)で、若干増加しました。生理検査はほぼ前年度と同等でした。

また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行されたことに伴って新型コロナウイルス抗原検査数が半減しました。

リハビリテーション室

職員紹介

成田 元氣 (副理学療法士長)	大西 拓哉 (主任理学療法士)	理学療法士14名
石井 亮太 (主任理学療法士)	池田 祐志 (主任作業療法士)	作業療法士12名
大山 聰 (主任理学療法士)	菊地 由洋 (主任作業療法士)	言語聴覚士 4名
大波 聰司 (主任理学療法士)		非常勤理学療法士1名

業務内容

- ・急性期一般、地域包括ケア、回復期リハビリテーション病棟に職員を配置し、運動器疾患、脳血管疾患、廃用症候群のリハビリテーションを実施。
- ・言語聴覚士による摂食機能評価や言語機能・嚥下機能回復訓練等も実施しております。
- ・急性期一般病床では、整形外科の大腿骨頸部骨折、人工関節置換術後等の患者様へ手術の翌日からリハビリテーションを提供しています。
- ・地域包括ケア病床では15床のベッドに対して理学療法士1名を専従登録し退院支援にも力を入れて取り組んでおります。
- ・急性期一般病床、回復期病棟では365日リハビリテーションを提供しております。
- ・回復期リハビリテーション病棟では、早期の自宅退院を目標に各種カンファレンスや回診を実施しています。また、日常生活動作能力の向上を目標に、病棟でのADL訓練やADL室を使用した家事動作訓練、復職に向けた各種作業、自動車運転評価等を実施しております。退院前には多職種カンファレンスや家屋環境調査等も実施しております。

令和5年度実績

【職種別実績(単位数)】

	理学療法	作業療法	言語聴覚	合 計	収 入
令和5年度	72,939	49,133	16,082	138,154	280,207,000
令和4年度	71,206	47,487	16,046	134,739	272,681,800
前年度比	1,733	1,646	36	3,415	7,525,200

【病棟別実績(件数)】

	急性期一般	地域包括ケア	回復期	合 計
令和5年度	9,688	3,702	37,433	50,823
令和4年度	10,742	3,003	35,254	48,999
前年度比	-1,054	699	2,179	1,824

【病棟別実績(単位数)】

	急性期一般	地域包括ケア	回復期	合 計
令和5年度	25,390	7,799	105,064	138,253
令和4年度	26,345	6,827	101,567	134,739
前年度比	-955	972	3,497	3,514

令和5年度総括

令和5年度は職員の補充があったことと、新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に抑えたことで、全体的に単位数の増加を図る事ができました。

急性期一般病床の件数及び単位数の減少がみられます、地域包括ケア病床の稼働率が増加した影響であり、全体的な件数及び単位数の減少は生じておりません。

新型コロナウイルス感染症の5類移行後は、家屋環境調査の取り組みを強化し、多職種を集めての退院時カンファレンスの再開など、退院支援の充実化を図る事ができました。院内業務以外では、行政と連携を取りながら、地域リハビリテーション活動支援事業として介護予防活動リーダー育成研修や『通いの場』(高齢者をはじめ地域住民が、他者とのつながりの中で主体的に取り組む、介護予防やフレイル予防に資する多様な活動の場・機会)の活動支援事業へ延べ47名の職員を派遣しております。その他、当院オリジナルの『リハビリ元気体操』の発行や社会福祉協議会と共同して『まごころレター』の発行を行い、地域住民の健康の保持増進・介護予防に寄与する活動を実施しました。

通所リハビリテーション トレイユ

職員紹介

成田 可奈（主任理学療法士）

理学療法士1名

介護福祉士2名

療養介助員2名

業務内容

- ・介護保険利用者に対し、院内に通所して頂きリハビリテーションサービスを提供。
- ・利用時間は30分以上90分未満で1日2ケール行い、短時間リハビリ特化型体制で実施。
- ・身体機能・バランス能力、生活能力、脳機能へ対して個別訓練、集団訓練を実施。

令和5年度実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用実人数	要支援	62	61	58	53	53	50	50	48	53	52	52	54	646
	要介護	31	30	29	31	24	24	19	19	20	21	21	20	289

述べ回数	要支援	278	262	277	234	241	223	220	202	223	218	226	236	2,840
	要介護	130	132	130	122	99	87	85	74	85	81	90	75	1,190
合 計		408	394	407	356	340	310	305	276	308	299	316	311	4,030
令和4年度合計		325	316	383	363	378	363	376	378	356	367	396	460	4,461
前年比		83	78	24	-7	-38	-53	-71	-102	-48	-68	-80	-149	-431

令和5年度総括

令和5年度は職員の退職等により、新規利用者の受け入れ制限を行ったため利用者数が減少しましたが、当事業所が方針として掲げている「卒業（目標達成してのサービス終了）」に対する支援については継続して取り組めており、移行支援加算の算定ができております。

利用者アンケートでは、運動に対しての満足度は約90%が満足していると回答しており、前年度よりも満足度の向上を図る事ができました。また、介護職員が実施している集団体操に対する満足度では84%が満足しているとの回答を得ることができました。

訪問リハビリテーション

職員紹介

理学療法士3名

業務内容

主に介護保険利用者に対し、ご自宅等へ訪問しリハビリテーションサービスを提供しています。実際の生活場面の中で、日常生活動作訓練・心身機能訓練・家事動作訓練・外出訓練等を行います。また、住環境整備や家屋改修の提案・福祉用具の選定や使用練習等も行います。ご家族の方に対しては、生活場面での様々なご相談に対応することに加えて、介助方法の指導等も行っています。

退院直後の方に対しては、短期集中リハビリテーションによる週2回以上の訪問を実施することで、退院直後の生活への不安解消を図り、早期に在宅生活へ慣れることができるように支援を行います。

専従の理学療法士3名により多職種連携に力を入れ、質の高いチームケアの提供を目指しています。

令和5年度実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問件数	要支援	75	83	93	92	97	93	114	95	116	116	118	126	1,218
	要介護	192	168	172	175	194	168	181	189	176	168	174	165	2,122
合 計		267	251	265	267	291	261	295	284	292	284	292	291	3,340
令和4年度合計		212	251	307	275	246	271	285	297	289	250	270	291	3,244
前年比		55	0	-42	-8	45	-10	10	-13	3	34	22	0	96

延べ回数	要支援	149	166	185	184	194	187	228	188	230	231	236	257	2,435
	要介護	434	383	388	392	439	376	409	418	401	378	386	370	4,774
合 計		583	549	573	576	633	563	637	606	631	609	622	627	7,209
令和4年度合計		460	547	663	597	547	597	625	648	633	547	596	634	7,094
前年比		123	2	-90	-21	86	-34	12	-42	-2	62	26	-7	115

令和5年度総括

令和5年度も「卒業(目標達成してのサービス終了)」に向けた取り組みを継続し、前年度に引き続き移行支援加算の基準を維持できました。

訪問時間の延長や振り替え利用等を積極的に実施した事で、訪問実績を増加させることができました。

また、訪問地域を整理し、移動経路の効率化を図ることで時間の有効活用ができました。その結果、時間にゆとりができたことで全体の業務改善が実現しました。

令和4年度から開始した利用者アンケートを令和5年度も実施し、サービスの質向上への取り組みを継続して行いました。

栄養管理室

職員紹介

水野 光（副栄養管理室長）

給食委託業者：日清医療食品(株)

管理栄養士1名

栄養士1名、調理師2名、調理員4名（計7名）

業務内容

- ・栄養食事指導（外来栄養食事指導、入院時・退院時栄養食事指導）
- ・入院患者に対する栄養評価と栄養管理
- ・栄養サポートチームによる栄養介入
- ・大量調理マニュアルに基づいた安全な食事の提供

令和5年度実績

	実績	前年比
総 提 供 食 数	102,843食	+2,019食
特 別 食 加 算 率 平 均	74.0%	3.4%
在宅患者訪問栄養食事指導	0件	0件
外 来 栄 養 食 事 指 導	437件	-55件
入 院 栄 養 食 事 指 導	524件	-13件

令和5年度総括

令和5年度も栄養管理室の人事異動があり、更に人員体制が3名から2名（内1名は新卒採用）となりました。新人教育を行いながら効率を意識した業務を行うことで昨年度よりも大幅に残業時間を減らしたうえで、栄養指導実施件数の減少を10%未満の減少に留めることができました。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったことから現場で廃棄できるディスポ製品等の利用を通常へ戻しました。

また、物価高騰により食材や栄養剤に係る費用も増加したことから献立の一部を変更するなどの対応が必要でした。

看護師の業務改善の一環として看護師の要望を取り入れて、食事提供方法の見直しを行いました。

訪問看護ステーション

職員紹介

管理者 吉田 加代子（看護師長）

看護師2名

業務内容

在宅療養者の療養上の世話、医師の指示による医療処置、訪問診療同行・同席
緩和ケア、在宅での看取り、介護相談・助言、365日24時間体制での緊急時対応
退院前カンファレンスへの参加、ケアカンファレンスの実施、部署内会議や研修会
事例検討会、デスカンファレンス、院内・看護部委員会への参加

令和5年度実績

訪問回数(実人数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護保険	173(43)	181(40)	185(39)	171(39)	173(36)	154(38)	167(38)	179(38)	169(36)	175(37)	170(39)	168(40)
医療保険	55(11)	49(11)	68(11)	66(11)	65(11)	58(10)	63(11)	45(11)	57(10)	46(8)	41(8)	48(8)
合 計	228 (54)	230 (51)	253 (50)	237 (50)	238 (47)	212 (48)	230 (49)	224 (49)	226 (46)	221 (45)	211 (47)	216 (48)

医療機関別指示書人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
自 院	27	27	25	26	25	27	22	24	23	24	24	23	297
他 病 院	15	15	14	13	11	8	13	12	10	8	10	11	140
在宅支援 診 療 所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
そ の 他 診 療 所	12	12	12	7	7	12	14	13	13	8	12	14	136

令和5年度総括

全利用者の約半数が認知機能の低下により支援が必要であり、その約半数は独居であることから認知症高齢者が増えていることを実感しています。また、判断能力が保たれている期間にアドバンスケアプランニング（ACP）について一緒に考え、意思決定を促していくことの重要性を感じながら支援しています。そこで、今年度の看護研究では、訪問看護師として、日々利用者の支援をする中で関心の高いテーマであった「認知機能の低下がある独居の高齢者が在宅で暮らし続けられた要因を振り返る」に取り組みました。認知機能の低下が進む中、本人の意向を確認しながら支援していましたが、自ら「食べる」「飲む」という行動ができなくなったことで、在宅療養の継続が困難となり、経口摂取の大切さを再認識することができました。

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ変更となり、対面での退院前カンファレンスや担当者会議が増えるなど状況は変化しつつありますが、感染対策に留意しながら訪問看護を行いました。

地域連携室

職員紹介

伊藤 洋介（地域連携室長・看護師長）

社会福祉士1名

非常勤事務員1名

業務内容

【前方支援：地域連携室長】

1. 入院・外来紹介・逆紹介への対応、連絡調整、返書管理
2. 患者情報の確認及び問い合わせ等の対応（電話対応等）
3. 他院受診時の予約管理
4. 渉外業務：連携先との情報交換、定期的な訪問による関係構築
5. 診療情報提供書（紹介状・返書）の管理及び作成
6. レスパイト入院の予約、相談受付
7. 管理業務など：地域協議会、整形外科症例検討会その他地域研修の企画・運営

【後方支援：社会福祉士】

1. 転院（後方病院）調整
2. 退院支援過程における院内外の関係職種・機関との連携・協働
3. 関係機関、職種との連携・協働
4. 退院後受診先外来予約など
5. 社会保障制度（介護保険・身体障害者手帳・難病の方の事業など）の提案

令和5年度実績

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
紹介患者数	712	913	839	967	833
逆紹介患者数	970	825	1,037	1,020	1,264

【地域協議会】10月：外部構成員6名参加（救急対応・ワクチン接種など）

3月：外部構成員6名参加（災害・防災訓練など）

【整形外科症例検討会】参加者：消防本部17名・病院45名

令和5年度総括

当院は、令和2年の新築移転後より、外来新規患者が増加しています。

市内の開業医の先生からの外来受診・入院依頼や近隣の総合病院からリハビリ目的の転院依頼を受け入れています。

地域の医療機関以外の居宅系介護事業所や協力関係機関への訪問回数を増やし、顔の見える関係性の構築を目指し取り組みました。

部署内では、1ON1ミーティングを導入し、管理者と職員間のコミュニケーション活性化や職場環境改善に取り組んでいます。

居宅介護支援センター

職員紹介

猪股 博規（主任介護支援専門員）

介護支援専門員2名

業務内容

「居宅介護支援」は、居宅の要介護者が居宅サービス等を適切に利用できるよう、心身の状況、置かれている環境、要介護者の希望等を勘案し、居宅サービス計画を作成します。また、介護保険施設等への入所を要する場合は、サービス事業者等との連絡調整を行い、当該施設への紹介を行います。

居宅介護支援の提供に関しては、利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、提供される居宅サービス等が、特定の種類又は特定の居宅サービス事業者等に不当に偏ることのないよう、公正中立に行います。

また、利用者及びその家族の意向も踏まえ、要介護認定の代行申請等に必要な援助を実施します。

令和5年度実績

登録数1,338件、実績数1,227件、稼働率：97.3%、平均担当数34件

総収入18,301,880円

新規受入78件

（内訳：地域包括支援センター36件、医療機関19件、家族1件、施設等23件）

加算算定119件

（内訳：初回加算44件、退院・退所加算13件、入院時情報連携加算54件

ターミナルケアマネジメント加算2件、通院時連携加算6件）

介護予防委託件数1件（延べ人数6件）

認定調査委託1件

研修参加21件（集団研修13件、web研修8件）

令和5年度総括

居宅介護支援センターは、特定事業所加算を算定し、質の高いケアマネジメントを提供する事業所として事業運営を継続しています。

地域包括支援センターが主催するスーパービジョン事例検討会等に出席し、各ケアマネジャーの資質向上に向けた取り組みを積極的に行ってています。

さらにセンター内では支援困難と感じるケースは定期会議等で事例検討を行い、各職員と対応方法の協議及び情報共有を図り、適切な支援方法を構築することで、安心して業務ができる体制を確保しています。

登別市地域包括支援センターゆのか

職員紹介

菊池 豪（主任介護支援専門員）

保健師1名

社会福祉士1名

介護支援専門員2名

業務内容

1. 国の定める「地域支援事業実施要綱」の包括的支援事業【※1】において、介護保険法第115条の45第2項第1号～3、6号、法第115条の48の業務委託を登別市から受注。
2. 指定介護予防支援事業及び第1号介護予防支援事業の指定。
3. 地域支援事業【※2】に定められる一般介護予防事業の介護予防把握事業として、実態が把握できていない180名の80歳の方（昭和18年4月2日から昭和19年4月1日生まれの方が対象）の自宅訪問・調査委託を受諾。

※1包括的支援事業の具体的業務内容は、①総合相談支援事業、②権利擁護事業、③包括的・継続的ケアマネジメント事業、④介護予防ケアマネジメント事業、⑤認知症総合支援事業、⑥地域ケア会議推進事業となっています。

※2地域支援事業として、生活支援体制整備事業や在宅医療・介護連携推進事業、一般介護予防事業等の企画や実施に協力しています。

令和5年度実績

・総合相談支援事業

新規総合相談311件、延べ件数2,161件。本人と家族の相談延べ件数1,502件。医療機関287件。

相談方法は訪問558件、電話対応1,405件。

介護保険、在宅サービスに関する相談延べ件数2,365件、認知症関連327件、退院支援108件。

・権利擁護業務

高齢者虐待対応実人数37件、延べ119件。消費者被害相談対応実人数0件、延べ0件。

成年後見制度等相談実人数12件、延べ23件。

権利擁護事業に関わる普及啓発活動は、計4回で102人。町内会への通信の発行や出前講座、研修会の開催を実施。

・包括的・継続的ケアマネジメント事業

地域の介護支援専門員の後方支援を行う活動は、電話や訪問、来所等で104件。

居宅介護支援事業所、介護保険施設設計画作成担当者を対象に事業所訪問を17件。

ケアマネジメントや認知症関連の相談支援31件、指導助言・個別支援52件。

市内介護支援専門員を対象とした集合研修を2件開催。

・介護予防ケアマネジメント業務

老人クラブ・いきいきサロンへ出前講座12回開催。

住民主体の通いの場に関する介護予防地域課題解決型ケア会議1件開催。

自立支援型個別ケア会議4回開催。

・認知症総合支援事業

認知症サポーター養成講座の開催：小中学校5校、一般住民向け1回、ステップアップ講座1回
認知症オレンジ通信の町内会回覧発行。

認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム等との連携。

登別市地域包括支援センターゆのか

・地域ケア会議推進事業

相談及び活動件数7件、自立支援型個別ケア会議4件。

総合相談の地域課題分析、市役所との意見交換。

・市及び他機関との連携

市と包括支援センター代表者の会議を月1回。

市と各職種との定例会議を月1回、弁護士・司法書士、消費生活センター等との意見交換会。

在宅医療介護連携に関わる相談延べ件数904件。

・指定介護予防支援及び第1号介護予防支援：3,594件、訪問及びカンファレンス1,824件。

令和5年度総括

地域包括支援センターは、地域包括ケアシステムの中核を担う重要な機関として登別市より事業委託され、5名の常勤職員が担当しています。担当圏域には令和5年4月末時点で5,564名の高齢者がおり、要介護認定者数559名、要支援認定者数436名、事業対象者※数4名となっております。

包括的支援事業を遂行し、延べ3,594件の介護予防ケアプランの作成や、及啓発や出前講座の開催等、感染防止対策を実施して地域とのネットワーク活動を遂行しました。

また、オンラインを活用した各関係機関との会議出席や研修会の開催も企画し、地域の介護支援専門員資質向上の支援を実施しました。

※事業対象者とは・・・65歳以上の方で、要支援（要介護）状態となることを予防するための援助を行う必要があると「基本チェックリスト」の実施により該当した方をいいます。

総務企画課 総務

職員紹介

後藤 学（事務長補佐）
佐藤 正卓（経営企画係長）
一般職員（事務）1名
技能職員（電気・営繕）1名
非常勤職員（事務・システム・保育）計7名

業務内容

人事・給与・労務・福利厚生・経営企画・文書管理・施設管理・営繕・保育・システム管理
この他、どの部署にも属さない事項を担当しています。

令和5年度実績

上記業務の実施

令和5年度総括

通常業務に加えて、不在者投票（4月）、地域協議会（10月）の実施、また、各種監査対応、令和6年4月から施行される医師の働き方改革の新制度に伴う対応を行っております。

JCHOの複数の施設から応援看護師を派遣いただきありがとうございました。引き続き看護師の増員をすべく採用活動に努めております。

総務企画課 経理

職員紹介

瀧川 純輝（契約係長）

新家子 公人（経理係長）

上林 功亮

非常勤事務員1名

業務内容

- ・予算・決算作成に関すること。
- ・資金調達、現金管理に関すること。
- ・物品購入、役務契約に関すること。
- ・固定資産に関すること。

令和5年度実績

新型コロナウイルス感染症の影響により、延入院患者数が対計画比▲466人で入院診療収益が減収となり、計画未達成となった。

一方、延外来患者数は対計画比▲1,427人、診療単価も下がり、計画未達成となった。

主な要因としては、地域の新型コロナが5類になり発熱外来受診者が減少したことが考えられる。

令和5年度総括

新型コロナウイルス感染症のクラスターにより入院患者の受け入れ等が制限され、患者数や手術件数が減少しました。

医療機器更新、保守契約を行い、長期的な経営視点から投資を行いました。

総務企画課 医事

職員紹介

新津 英俊（事務長補佐）

医事委託業者：株式会社ニチイ学館12名

志和 正幸（算定病歴係長）

委託業務：外来受付・窓口業務

一般職員（事務）1名

非常勤事務員1名

業務内容

- ・外来患者の受付、患者登録
- ・診療費の計算、収納会計
- ・未収金に関する督促業務
- ・診療報酬明細書作成、オンライン請求業務
- ・査定、返戻に関する業務
- ・労災保険、自賠責保険、公務災害に関する手続き及び請求業務
- ・訪問リハビリ・通所リハビリの請求に関する業務
- ・訪問看護の請求に関する業務
- ・施設基準に関する業務
- ・診療記録の管理に関する業務
- ・各種統計業務

令和5年度実績

【入院】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
在院患者延数	2,852	3,077	2,924	3,176	3,167	2,953	3,131	3,018	3,101	3,170	2,987	3,026	36,582
新入院患者数	81	76	87	74	84	64	87	83	80	84	76	67	943
退院患者数	79	75	81	77	82	69	84	82	87	73	75	87	951
一日平均入院患者数	95.1	99.3	97.5	102.5	102.2	98.4	101	100.6	100	102.3	103	97.6	100.0
病床利用率	86.4%	90.2%	88.6%	93.1%	92.9%	89.5%	91.8%	91.5%	90.9%	93.0%	93.6%	88.7%	90.9%
入院新患率	2.8%	2.5%	3.0%	2.3%	2.7%	2.2%	2.8%	2.8%	2.6%	2.6%	2.5%	2.2%	2.6%

【外来】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
延外来患者数	1,644	1,744	1,946	1,756	2,066	2,023	1,929	1,879	1,996	1,933	1,820	1,969	22,705
外来新患者数	309	343	323	320	446	393	352	384	382	414	363	291	4,320
一日平均外来患者数	82.2	87.2	88.5	87.8	93.9	101.2	91.9	94.0	99.8	101.7	95.8	98.5	93.4
外来新患率	18.8%	19.7%	16.6%	18.2%	21.6%	19.4%	18.2%	20.4%	19.1%	21.4%	19.9%	14.8%	19.0%

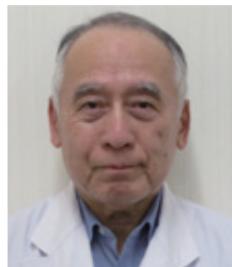
令和5年度総括

10月：「看護職員処遇改善評価料21」から「看護職員処遇改善評価料25」に変更

11月：「入院時支援加算」を取得

健康管理センター

職員紹介



新津 英俊（事務長補佐）

非常勤事務員3名

伊藤 美夫
(センター長)

業務内容

- ・生活習慣病予防健診・日帰りドック・法定健診・特定健診・簡易健診・乳がん検診、子宮がん検診等

令和5年度 健康診断実施実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
受診者数	271	245	288	266	249	209	267	302	215	171	213	192	2,888

健診区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
一般健診	154	284	86	89	100	75	84	162	86	68	78	77	1,343
人間ドック	5	44	77	62	63	64	72	61	55	45	45	24	617
特定健診	10	28	37	29	37	24	34	38	39	22	22	34	354
簡易健診	101	70	80	79	42	38	28	84	25	31	57	48	678
脳ドック	0	1	4	3	3	6	8	5	2	0	3	5	40
乳がん検診	1	2	3	0	2	3	5	7	8	4	4	5	44
子宮がん検診	3	5	2	3	4	2	6	5	4	0	9	5	48
特殊健診	5	1	0	0	1	1	33	0	1	0	2	0	44
その他	1	1	4	9	5	2	8	11	7	6	8	1	63
合 計	280	436	293	269	257	215	278	373	227	176	228	199	3,231

検査項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胃カメラ	96	117	124	124	144	117	127	129	131	94	94	68	1,365
胃バリウム	39	40	47	29	43	38	45	43	35	32	36	28	455
腹部エコー	20	56	95	88	82	69	82	95	96	77	54	30	844
眼底・眼圧測定	36	67	130	114	103	98	116	98	83	61	66	43	1,015
乳がん(併用)	6	21	21	30	19	27	40	38	28	11	24	17	282
子宮がん(併用)	10	14	13	16	15	12	21	20	18	0	12	9	160
腰椎健診	66	46	2	47	1	0	0	1	0	0	27	17	207
その他	3	15	10	15	12	22	13	8	6	8	29	5	146
合 計	276	376	442	463	419	383	444	432	397	283	342	217	4,474

令和5年度総括

令和5年度も前年度の収益を上回ることとなりました。主な要因として、前年度以前に行っていた訪問営業活動や広告等により、前年度に比べ新規受診事業所数が約1.25倍、それに伴う受診者数が約1.7倍と増加したことが挙げられます。また、胃カメラの検査日拡大により、単価の高いコースの受診者数が増加したことでも要因の一つであると考えられます。

委員会紹介

独立行政法人 地域医療機能推進機構 登別病院

JCHO登別病院
NOBORIBETSU HOSPITAL

委員会 医療安全委員会

委員紹介

委員長 鎌田 紀子（麻酔科部長）
副委員長 津野 幸子（副看護部長）
委員 伊藤 洋介（地域連携室長）／秋元 聰（副診療放射線技師長）
水野 光（副栄養管理室長）／福野 和治（主任薬剤師）
大波 聰司（主任理学療法士）／佐藤 正卓（経営企画係長）
臨床検査技師1名

業務内容

委員会は、月に1回、第3月曜日に開催。医療安全管理室の指示により、以下の計画に沿って活動。

- ①令和4年度の各部署でのインシデント傾向を把握する
- ②インシデント・アクシデント再発防止に向けた対策が立案されているか、評価を委員会及びラウンドで確認する
- ③繰り返し発生している事象や警鐘事例を委員会で検討し、部署へフィードバックする
- ④各部署の進捗状況を委員会で確認する

令和5年度実績

1. インシデント・アクシデント報告数・・・812件

①レベル別インシデント数

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5
537件	242件	22件	7件	2件	0件	2件

②分類別件数

薬剤195件 輸血0件 治療処置16件 医療機器1件 ドレーンチューブ7件

検査139件 転倒転落335件 誤飲8件 その他111件

2. 令和5年度医療安全研修・・・参加率100%

- テーマ ①基礎から学ぶ！医療安全
②医療ガスの安全管理と事故防止策
③チームの力を引き上げる！多職種で取り組む医療安全

令和5年度
総括

今年度はレベル5のアクシデントが2事例発生しましたが、レベル0の報告から対策を立てて対応することにより、転倒・転落によるアクシデントを減少させることができました。

また、市中の新型コロナウイルス感染状況を踏まえて医療安全研修はオンデマンド研修としましたが、参加率は100%を達成することができました。

職員紹介

感染対策委員長 横山 豊治（副院長 ICD）
感染対策副委員長 佐藤 香（看護師長）
委 員 代田 充（内科医長）／江崎 克樹（整形外科医師）／津野 幸子（副看護部長）
阿閉 友美（副看護師長）／新家子 公人（経理係長）／福野 和治（主任薬剤師）
石井 亮太（主任理学療法士）／池田 祐志（主任作業療法士）
看護師2名／臨床検査技師1名

業務内容

感染対策の強化・充実を図り、安心・安全な医療提供ができるよう活動を行う。

令和5年度実績

感染対策講習会……………3回/年（うち1回 N95マスクフィットテスト及び手洗評価）
感染管理加算Ⅲ……………維持
感染対策地域ネットワーク……カンファレンス4回/年（うち1回新興感染症 訓練）
擦式アルコール製剤使用量……1日1患者 18.61mℓ
新型コロナウイルス……………クラスター1回（8月）

令和5年度 総括

新型コロナウイルス感染症が、感染症法上5類に変更となり、院内での患者・職員の対応について、整備を行いました。5類移行後は、当院周辺でも観光客が増えるなど人流の増加がみられました。そのため、院内への持ち込みが最小限となるよう、入院患者及び付き添い家族のスクリーニングを継続し、職員には、個々で健康管理徹底するよう働きかけました。

院内リンクスタッフが中心となり、感染対策に対する職員教育を行うとともに、N95マスクのフィットテスト・手洗い評価を行い、適切な感染対策が行えるよう活動しました。

8月には、新型コロナウイルス感染症によるクラスターが発生し、患者13名、職員2名が罹患、終息までに21日間を要しましたが、重症化する患者の発生もなく、診療体制にも大きな影響を及ぼすことなく終息することができました。

委員会 病床管理委員会

委員紹介

委員長 小澤 慶一（統括診療部長）
副委員長 津野 幸子（副看護部長）
委員 横山 豊治（副院長）／沓澤 佳代子（看護部長）／小林 美喜枝（看護師長）
平田 恵美子（看護師長）／伊藤 洋介（地域連携室長）／成田 元気（副理学療法士長）
新津 英俊（事務長補佐）／佐藤 正卓（経営企画係長）／医事課事務員1名

業務内容

委員会は、月に1回、病院運営に関して、経営改善・患者サービス向上に向けた病棟管理及びベッドコントロールについて審議し、効果的・戦略的な病床管理をすることを目的とし会議を実施しています。また、小委員会を設け、毎週木曜日に病棟間及び関連部門との連絡調整を実施しています。

令和5年度実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西一般	平均在院日数	13.5	16.3	15.2	17.5	17.1	22.6	16.5	13.7	15.8	14.5	16.5	17.5
	看護必要度	15.0	17.3	24.4	24.2	15.8	17.5	23.8	19.8	24.5	24.0	17.2	21.9
	在宅復帰率	92.3	60.0	77.8	68.8	72.7	78.9	77.4	83.8	77.3	76.0	65.5	73.9
西包括	平均在院日数	12.4	16.7	13.4	13.5	12.5	12.0	13.2	16.7	12.2	12.0	12.0	12.0
	看護必要度	22.7	15.9	3.2	21.4	12.3	20.0	21.9	25.7	25.6	9.0	11.6	16.1
	在宅復帰率	95.0	81.8	76.0	81.5	76.0	95.5	85.7	82.4	77.4	82.1	85.7	88.9
回復期	平均在院日数	50.0	66.6	53.6	84.2	50.5	65.9	51.7	52.3	49.4	86.8	67.9	48.9
	在宅復帰率	77.4	76.9	79.2	94.1	81.3	73.9	76.9	76.9	78.6	70.6	73.9	77.4

分類	項目	前年度実績累計	当年度計画累計	当年度実績累計
入院	一日平均入院患者数	98.3	99.7	100.0
	患者一人一日当たり入院診療収益(円)	39,932	40,487	40,021
	実働病床利用率	89.30%	90.70%	90.90%

令和5年度
総括

疾患別の入院期間を分析し、転棟時期及び転院・退院調整の指標を作成しました。一日の入院患者数は増加したものの、一人当たりの入院診療収益は目標を達成することができませんでした。

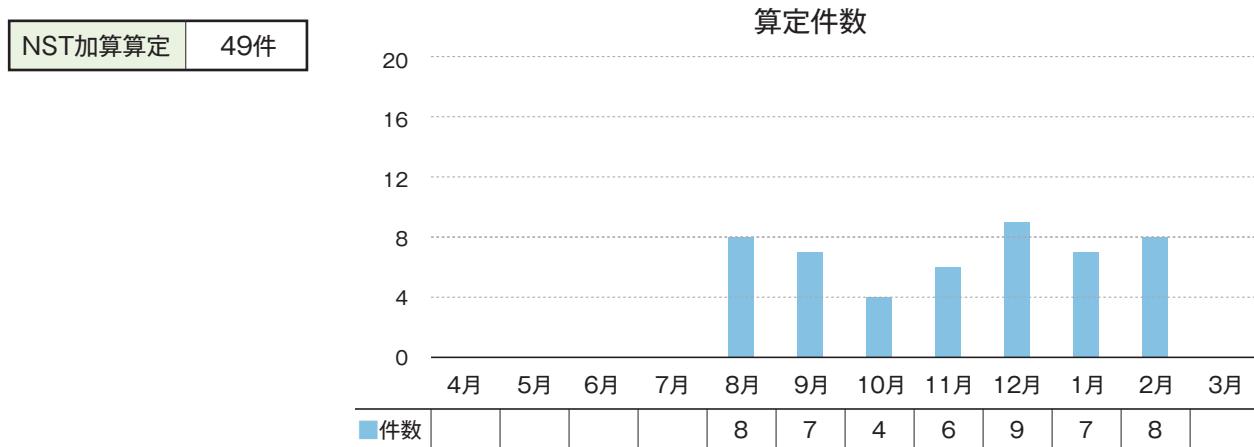
委員紹介

委員長 代田 充（内科医長）
 副委員長 水野 光（副栄養管理室長）
 委員 堀 良行（薬剤部長）／平田 恵美子（看護師長）／深澤 孝子（副看護師長）
 大西 拓哉（主任理学療法士）／五十嵐 香（主任臨床検査技師）
 看護師1名／言語聴覚士1名／管理栄養士1名／医事課1名

業務内容

- ・栄養スクリーニング、アセスメントの実施
- ・主治医、看護師等からのコンサルテーションへの対応
- ・栄養モニタリングと栄養計画の立案と実施
- ・低栄養患者への栄養指導
- ・NST回診、カンファレンスの実施

令和5年度実績

令和5年度
総括

医師がNSTチームの総括と方向性を提示しやすい体制へ見直しました。
 また、円滑にリハビリができるように早期に栄養リスクのある患者を拾い上げ各職種と現状について検討し、改善の提案を行いました。また、栄養に問題のある内科入院患者も増えていることから内科にも対応できるように栄養剤の変更も行いました。

委員会 輸血療法委員会

委員紹介

委員長 小澤 慶一（統括診療部長）
副委員長 五十嵐 香（主任臨床検査技師）
委員 鎌田 紀子（麻酔科部長）／沓澤 佳代子（看護部長）／堀 良行（薬剤部長）
小林 美喜枝（看護師長）／志和 正幸（算定病歴係長）

取り組み内容

- (1) 輸血の使用状況調査
- (2) 輸血療法実施時の検査・手順に関する事項
- (3) 輸血事故の有無
- (4) 輸血療法に関する情報
- (5) 上記の他、輸血療法全般に関する事項

令和5年度実績

輸血管理料Ⅱ、輸血適正使用加算を維持

名 称	使用単位数	前年度比
①赤 血 球 製 剤	406	+50単位
②血 小 板 製 剤	300	+280単位
③新 鮮 凍 結 血 漿	10	▲2単位
④自 己 血	104	+19単位
⑤25%アルブミン製剤	225	▲87.5単位

アルブミン・MAP比：⑤÷(①+④)

FFP・MAP比：③÷(①+④)

令和5年度
総括

血液製剤の廃棄はありませんでした。
アルブミン・MAP比は0.44で前年度より0.26減、FFP・MAP比は0.02で前年度より減少し、いずれも輸血適正使用加算の条件を満たしました。

委員会 褥瘡対策委員会

委員紹介

委員長 石川 典俊（院長）
副委員長 小林 美喜枝（看護師長）
委員 堀 良行（薬剤部長）／水野 光（副栄養管理室長）
菊地 由洋（主任作業療法士）
専任看護師2名／臨床検査技師1名／医事課1名

業務内容

- ① 各病棟専任看護師が褥瘡危険因子の的確な評価がされているかの確認
- ② 褥瘡発生予防、適切なケアの実施
- ③ NST委員会と情報共有を行い、栄養管理の実施
- ④ 褥瘡回診の実施
- ⑤ 体圧分散寝具整備

令和5年度実績

発生状況 17件

発生部位	日常生活自立度	褥瘡の状態
仙骨部	B1	D3
仙骨部	C2	d1
仙骨部	C2	d2
仙骨部	C2	d2
仙骨部	C1	D3
仙骨部	C2	d2
左側部外側	C2	d1
仙骨部	A2	d2
仙骨部	C2	d2
左下肢	C2	d2
背部	C2	d2
仙骨部	C1	d2
左踵部	B2	d2
仙骨部	C1	d2
仙骨部	A2	d2
仙骨部	C2	d2
仙骨部	B2	d2

持ち込み褥瘡件数	令和4年度	15件
	令和5年度	13件
褥瘡発生率	令和4年度	0.35%
	令和5年度	1.08%

令和5年度 総括

令和4年度の褥瘡発生件数は8件で推定褥瘡発生率は0.35%、令和5年度は前年度より+9件の17件、推定褥瘡発生率も1.08%と増加していますが、令和3年度の調査による一般病棟の推定発生率1.15%よりは低くなっています。

褥瘡発生危険因子を評価し、体圧分散マットや車椅子のクッションを使用することで、褥瘡の予防に努めましたが、褥瘡発生件数は増加しました。理由として、令和4年度より患者数も増加し、褥瘡発生リスクの高いC2（自力で寝返りがうてない）患者が多くなっていることが考えられます。

附属施設連絡先一覧

健康管理センター

〒059-0598
北海道登別市登別東町3丁目10番地22
電話 0143-80-1137 FAX 0143-50-6848

地域医療連携室

〒059-0598
北海道登別市登別東町3丁目10番地22
電話 0143-80-1119 (地域連携)
0143-50-6696 (医療福祉相談)
FAX 0143-80-1121

訪問看護ステーション

〒059-0598
北海道登別市登別東町3丁目10番地22
電話 0143-84-1983 FAX 0143-80-1121

居宅介護支援センター

〒059-0016
北海道登別市片倉町6丁目9番地1
総合福祉センターしんた21内 2階
電話 0143-88-2107 FAX 0143-88-2108

登別市 地域包括支援センター ゆのか

〒059-0016
北海道登別市片倉町6丁目9番地1
総合福祉センターしんた21内 2階
電話 0143-88-2106 FAX 0143-88-2108

独立行政法人
地域医療機能推進機構登別病院

令和5年度 病院年報

発行：令和6年11月

発行者 石川典俊
編集者 佐藤正卓